



特集 スポーツと地域

札幌と仙台の今

引用 「集客スポーツを利用した都市活性化と地域変動

：中核都市と周辺部に着目して」研究成果報告書より H20年5月

北海道大学大学院の教育学研究院の大沼氏とその研究グループでは、平成18年～19年に日本学術振興会の補助を受けて「集客スポーツを利用した都市活性化と地域変動」というテーマで調査研究を行い、今年5月に報告書をまとめました。なかなか一般では見ることのできない全体では195ページに及ぶ報告から、札幌と仙台的集客スポーツについてボランティア活動にも参考となるポイントをまとめて紹介します。

「集客スポーツ」とは地域を拠点としたプロスポーツやメガスポーツイベントをさしています。

はしがきを読むと、先行の研究成果から今日のプロスポーツには「都市PR」や「都市イメージ」を向上させる役割が期待されているとしています。確かにJリーグやそれ以降に誕生したbjリーグ・野球の独立リーグなど、一定規模の都市を拠点とし地域や都市の名前はもとよりそこに住む人々と連携したスポーツのあり方は、いまやごく当たり前の姿であり永年企業名で呼ばれることの多かったプロ野球においても、地域や都市の名前とセットで呼ばれることが一般的になっています。そうした変化に対し、改めて「集客スポーツ」の条件を提起するとともに、プロスポーツ球団がビジネスとして定立するための条件として、スタジアムの利用と管理が重要であり、そこは実に多様な「市民」によって支えられているということが報告書に示されています。

【 札幌市における集客スポーツ 】

札幌市にはサッカーのコンサドーレ札幌(1996年)・プロ野球の北海道日本ハムファイターズ(2004年)・日本バスケットボールリーグのレガカムイ北海道が本拠地を置いており、この結果札幌市が定期的実施している市民アンケート調査によればスタジアムなどで生でスポーツを観戦する「観戦率」は、平成15年の41.8%に対し、平成18年では46.8%と着実にアップし、とりわけプロ野球の観戦率が大幅に上昇しており「みる」スポーツへの意識は高まっています。反面、みずから週一回以上スポーツを「する」人の割合は平成15年の30.7%に対し平成18年では30.5%とほぼよこばいの結果となっています。

一方でスポーツを「ささえる」活動の中で、行政からの支援はコンサドーレへの財政的な支援を除けば概ね側面支援という形をとっており官民一体の支援組織はありません。コンサドーレ札幌は他のJリーグのクラブ同様地域に根ざしたチーム作りをめざしていますが、市民のかかわりは「ファンクラブ」や「後援会」そして「持株会」など主に財政的な支援のための組織によるものが中心となっています。唯一市民参加の組織としてゲームの運営などのサポートをする「コンサドーレ札幌ボランティア」が活動しています。こうしたボランティア組織は2007年には野球の北海道日本ハムファイターズにも誕生しており、プロスポーツの市民による「ささえる」組織にも変化が見え始めています。

報告書ではプロスポーツによる地域の変化の事例として、「ファイターズ通り商店街」を取り上げています。2003年の球団移転時にその地理的な特徴から「ななめ通り商店街」という愛称で呼ばれていたものから改称したことで大きな話題とはなったものの、商店街としては具体的な効果はみられず、むしろ町内会の住民相互のつながりを保つという結果からコミュニティにおける「リスク回避」の要素を持っているとしています。

【 宮城県及び仙台市における集客スポーツ 】

仙台市の都市基本計画である「仙台21プラン」(1998年)においては「豊かな都市文化」の創造のために「市民の元気をはぐくむスポーツの振興」をめざしており、アクションプランである「仙台市実施計画」では2004年から3ヶ年の事業内容として 幅広い市民スポーツの振興、 国際的スポーツ大会の開催、 多様なスポーツ活動の環境作りをあげています。一方、仙台市に本拠地をおくプロスポーツチームには現在サッカーのベガルタ仙台、野球の楽天イーグルス、バスケットボールの仙台89ERSがあり、2006年には新しく「仙台女子プロレス」が誕生しています。仙台市の都市計画のキーワードのひとつとなっている「スポーツ交流」に基づく政策では、これらの「プロスポーツ支援」や「国際的スポーツイベントの

誘致・開催」をポイントとしていますが、並行して「スポーツボランティアの育成・協力」にも力点が置かれている点が大きな特徴となっています。

前述の「プロスポーツ支援」においてはそれぞれのスポーツごとに自治体・関連団体による支援組織が作られサッカーではベガルタ仙台ホームタウン協議会、野球では楽天イーグルス・マイチーム協議会、バスケットボールではイエローブスターズが活動しています。それらの組織は、チームの支援事業や広報活動、地域との連携のための招待事業やスポーツ教室の開催事業などを各チームと一緒に進めています。また、3つのスポーツや支援組織の連携のため仙台プロスポーツネットという組織も2007年に誕生しています。

一方で、市民の立場からこうした支援組織とも連携してプロスポーツを盛り上げようとする人々の存在も仙台の大きな特徴のひとつとなっています。そのスタンスは支援対象となるプロスポーツ等が「地域にねづく」ことや「地域密着する」ことが、都市の新たな「スポーツ文化」として定着していく際に、市民がどうかかわるか、大きくいえばスポーツが地域作りにどうかかわるのかの視点を持っている点であり、それが行政によるイニシアチブではなく、市民の側から組織されている点で他都市とは大きく異なっているといえます。

具体的には「ベガルタ仙台・市民後援会」は「ベガルタ仙台を通して宮城県全体のスポーツ振興・発展による活気ある地域作り」をめざしており、市民スポーツボランティア組織「SV2004」は、「ボランティアのコーディネート活動・研修活動・情報発信・ネットワーク活動」などを通じてスポーツの振興をめざし、「みやぎ・環境とくらし・ネットワーク」(通称MELON)は、環境NGOとしてプロスポーツ3チームの試合を中心にごみの減量や環境問題への取組みを行う「エコシティ仙台プロデュースプロジェクト」に取り組んでおり、「スポーツを中心としたまちづくりを環境面からサポート」しているのです。

【 プロスポーツを「応援する会」アンケート調査より】

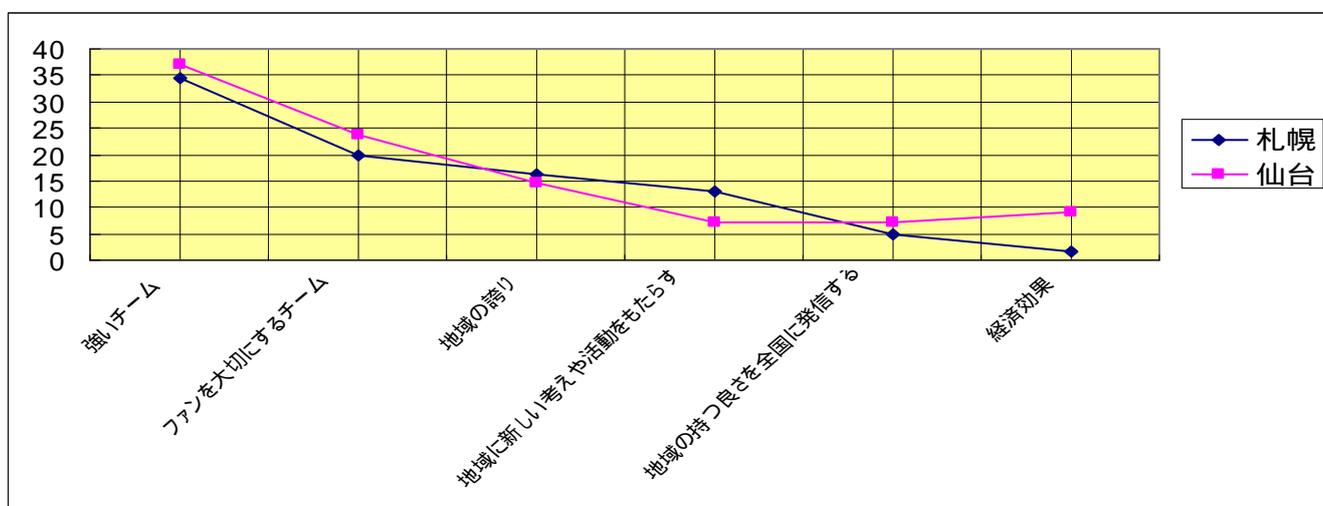
「応援する会」はチームの公式スポンサーではなくより小規模な事業所に対して球団が募集する応援組織であり、ここでは「コンサドーレ札幌サポート・シップ・スポンサー」と「楽天イーグルスを応援する会」を対象としています。

調査研究ではプロスポーツをささえる市民組織のひとつである「応援する会」を対象としてアンケートを実施し、支える意識についてまとめています。ここでは代表的な質問と回答につき紹介いたします。

(1) 組織に入った動機

「強く当てはまる」「まあまあ当てはまる」の合計で上位となった動機は「地元のチーム」「スポーツが好き」「地域の活性化」「地域貢献」が両方の組織に共通しています。いずれも企業自体の効果よりも、地域への効果を期待して支援しようとしている姿がうかがえます。特徴としてはコンサドーレでは「手ごろな金額」「チームとのつながり」も大きな入会動機となっているのに対し、イーグルスでは「新規性のある取組み」「顧客とのコミュニケーション」など話題性による効果に期待している様子もみられました。

(2) 球団に期待するもの



期待するものは「強いチーム」「ファンを大切にするチーム」「地域の誇り」の順であり、ふたつの球団に共通しています。

(3) クラブ・チームの誕生で地域は活性化したか

札幌では「格段にあった」と「少しはあった」をあわせて88.5%、仙台は90.3%があると回答、一方「一般的にプロ

スポーツは地域活性化に役立つか」という質問についても、札幌・仙台ともに約95%が「役立つ」とし、いずれも高い評価となっています。

(4) クラブ・チームの誕生でどんな地域活性化がはかられたか

活性化の内容	仙台	札幌
知名度の向上	84.6	50.8
市民の誇り	67.4	70.5
エンターテインメントの増加	63.2	80.3
子供たちのスポーツ活動の活発化	57.9	78.7
地域経済への波及	49.1	44.3
商業施設の呼び水	38.3	29.5
スポーツをする環境が良くなった	37.9	67.2
新しい組織などの活動が活発化	31.8	49.2
ビジネスチャンスの増加	31.2	18.0
一流都士の仲間入り	30.7	21.3
魅力的な街になった	30.3	23.0
独自性の発揮	27.2	29.5
産業の活性化	26.7	13.1
街並みが一新された	23.0	9.8
地元組織活動の活発化	22.7	37.7
交通網の整備	19.2	14.8
サービス業のレベル向上	14.9	11.5

仙台では「知名度の向上」「市民の誇り」「エンターテインメントの増加」が評価が高く、札幌では「知名度の向上」と入れ替わって、「子供たちのスポーツ活動の活発化」への評価が高かった。コンサドーレが1996年から活動しているのに対し楽天イーグルスの誕生は2004年とまだ球団の歴史が短いことも回答に対し影響していると予測されます。

【 調査報告書から見えてくるもの 】～感想

スポーツ、とりわけプロスポーツはチームや運営会社の維持はもとより、勝つための選手強化などにおいて多額の資金を必要としており、観客数の獲得による入場料収入の拡大や地域からの様々なサポートが不可欠なものとなっています。一方、地域とそこに住む市民は集客スポーツがあることで有形・無形の恩恵を享受しており、結果として集客スポーツにより地域の活性化がはかられたとする報告もありました。従来こうした効果については「経済的」な側面が注目されがちでしたが、近年ではより積極的に「スポーツの振興」や「地域コミュニティの活性化」のために集客スポーツに関わる市民や組織が誕生しつつあり、行政や企業も巻き込み「いきがい」や「文化的」な満足を目指すとしたサポートが始まっています。しかし、こうした目的での活動はその多くがボランティアなものであり、具体的な数値での目標や効果がつかみにくいことから、安定した活動として今後も「地域活性化」につながる存在となるかどうかは不透明です。

学校・企業スポーツが少子化や財政的な要因によって課題をかかえ、一方政策的に全国に総合型スポーツクラブが誕生するなど、今スポーツを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。その中でサッカーのJリーグが目指した「地域密着」のクラブ作りや運営方法は一定の効果を見せ、他のプロスポーツにも大きな影響を与えています。その影響の実態はなかなか見えにくいものですが、今回の「集客スポーツによる都市活性化」の調査報告は、特に「市民」の視点に注目したものとして、貴重な「今の姿」を教えてくださいました。

(留意点) 青文字の部分及びアンケート調査の内容は報告書より引用させていただきました。黒文字の部分はSV2004泉田がとりまとめました。



プロ野球と地域密着

大泉浩一（フリーライター・編集者）

皆さん、こんにちは。私のことをご存じない方も多いと思いますので、最初に自己紹介をさせていただきます。

生まれは岩手県の宮古市。父の転勤先だったというだけで、実家があるわけではありません。けれども、岩手には今も深い愛着を持っています。仙台に越してきたのはちょうど宮城球場にロッテオリオンズが来た1973年。私は中学生でした。路面電車が走り、プロ野球のナイターが行われる街・仙台は、当時の私にとって夢のような大都会でした。

プロ野球と言えばテレビで見るジャイアンツしか知らなかった私でしたが、生で見る選手たちのプレーは大迫力で、たちまちオリオンズファンになりました。自転車で駆けつけたサイン会で、村田兆治からボールを受け取るときは手が震えました。

しかしオリオンズは1977年いっぱい仙台を離れ、川崎市へと去ります。私は再び仙台にプロ野球チームができることを信じて待ち続け、2000年にはその想いを本にまとめて自費出版しました。2004年に楽天イーグルスができることが決まったときは飛び上がりそうになるほど喜びましたが、「自分が若いときにできていてくれれば」とも思いました。たとえば学生の時に仲間たちとスタンドで応援したら、どんなに盛り上がったでしょう。

私は今、楽天野球団の広報媒体に原稿を書かせていただいたり、河北新報の『週刊イーグルス』の記者や、「熱論！イーグルス」という企画のコーディネーターを務めさせていただいています。加えてベガルタ仙台の広報媒体のお仕事もいただいています。「スポーツライター」とご紹介いただくことがあります。実際は他にもいろいろな仕事をしていますが、仙台でプロスポーツのことが書けるなんて、本当にいい時代に巡りあわせたものです。

さて「地域密着」の話です。楽天野球団は「地域密着」を理念に掲げ、さまざまな活動をしています。私は特に、東北からもっと多くのプロ野球選手を輩出しようとしているジュニアスクールを高く評価しています。しかし「地域密着」とは、球団側だけがするものでしょうか。

もしそうであれば、球団経営が利益を上げること、黒字を生むことを目的にしている以上、「営業的にメリットがあるからやる、なければやらない」「お金や人手をかける余裕があればやる、なければやめる」ということになりかねません。ついこの間まで、半ば公然と「球団経営は儲かっている企業の税金対策」「巨人戦の放映権料があるからやれている」と言われていた世界です。お金の問題で球団が突然消滅したり、代わって楽天イーグルスがあわただしく誕生したりするのです。

プロ野球チームのある地域に住む私たちは、自分たちの側にとっての「地域密着」、いわば積極的な「球団への密着」を考え、実現していく必要があると思います。球団側の、精緻なマーケティングに基づいた営業戦略に対抗できるだけの情熱、「地域の宝である、公共財としてのプロ野球チームを失ってなるものか」という気持ちがなければ、オリオンズに去られた悲劇は繰り返されるだろうと私は思っています。

その意味で、SV2004さんが球団と対等なパートナーとなって創設時から作り上げてきたボランティア活動の仕組みは「球団と地域の相互密着」の実例として、もっと広く知られるべきものだと思います。実際の活動の水準も高く、Kスタ宮城でボランティアの皆さんを見かけるたびに、心の中で手を合わせずにはいられません。楽天イーグルスのボランティアは、仙台の街の誇りです。

地域には「そうまでして地域にプロ野球チームを置いておく必要があるだろうか」という考えの人もいるでしょう。しかし私は「仙台にはプロ野球チームが必要だ」と思います。

Kスタ宮城に向かう笑顔のサラリーマンたち、スタンドではしゃいでいる子どもたち、敗れた試合の帰り道、熱心に敗因を語り合う女性の二人連れ…。球団ができて3年半が過ぎた今でも、私はそうした人々を見ると、夢の中にいるような気持ちになります。車いすの人、ストレッチャーの上からわずかに顔を傾けてスタンドの様子を見ようとしている人、杖をつき手を引かれて自分の席に向かう人…。私はそうした人々を見ると、球団職員でもないのに「ご来場ありがとうございます、今日はどうぞ楽しめますように」と声をかけたくくなります。27年間、「仙台に再びプロ野球チームなんてできないわけないよ」と言われ続けてもあきらめなくて本当に良かった、と思うのです。

阪神淡路大震災のあった年に、神戸を本拠地とするオリックスが優勝して、被災者と被災地域に勇気を与えました。あの年の春のオープン戦、オリックスの選手たちはスタンドを見上げて、出かけるときはおしゃれをするはずの神戸市民が、みな作業着やブルゾンを着ていることにショックを受けたそうです。

今年は岩手・宮城内陸地震があって、楽天イーグルスは「頑張ろう！東北」という言葉を掲げて戦い、また募金活動などを行っています。選手たちは、かつてオリックスの選手たちがショックを受けたような機会はまだないでしょう。しかしシーズン後に選手が現地を訪ねる機会でもあれば、たとえ優勝できなくても「楽天イーグルスがこの地にあることには大きな意味がある」と言えると思います。そして選手たちにとっても、人生の大きな経験になると思うのです。

「地域密着」から「球団と地域の相互密着」へ。市民がその実現に向けて担うべきことは数多くあり、ボランティアのみなさんは、そのために大きな役割を果たしつつあります。私自身も仕事を通じて、少しでも貢献できるようにと考えています。これからも、どうかよろしくお付き合いください。

FROM 大分

チャレンジ大分国体

2008年は大分県・「花」「リハーサル」など準備は着々進行中

今年の9月に国体が予定されているのは「大分県」、このSVニュースの7月号が発行される段階では開催まで74日となります。63回目となる今回のテーマは「簡素な中にもおもてなしの心のこもった大会」であり、その中心となるボランティアの研修も始まっています。ひとつの特色としてネット環境の進歩に伴い、「東京マラソン」などでも活躍したブログによって、こまめにニュースや活動報告が発信されています。

大分国体ホームページ

<http://www.mejiron.jp/kokutai/modules/document1/>

選手担当のボランティアリーダー研修会

<http://www.mejiron.jp/taikai/modules/bulletin2/article.php?storyid=34>

運営ボランティア基礎研修

<http://www.mejiron.jp/kenmin/index.php/archives/109>

FROM 新潟

トキめき新潟国体

そして2009年、冬季大会から新潟が国体会場となります

国体は本大会と冬季大会があり多くの年は開催県が異なりますが、2009年はスキーに限っては新潟にて開催されます。そのため大会ホームページも既にかなりの情報が掲載されており、ボランティア募集についてもわかりやすく掲載されていました。

新潟国体ホームページ

<http://tokkikki.jp/>

ボランティア募集ホームページ

<http://tokkikki.jp/kokutai/volunteer/index.html>

これによると、ボランティアには「大会運営」「情報支援」「広報」があり、個人のほかに団体での登録も受け付けています。このほか、国体のあとに開催される全国障害者スポーツ大会には「選手団サポートボランティア」があり、既に大学や専門学校で約600名の養成研修がスタートしています。

選手団サポートボランティア養成研修

<http://tokkikki.jp/details.php?id=45>

FROM 千葉

ゆめ半島千葉大会そして将来のために

2010年、国体は千葉

国体と全国障害者スポーツ大会の本大会は既に2014年まで開催県が決定しています。来年以降の順番は「新潟・千葉・山口・岐阜・東京・長崎」であり、開催資金の問題や開催の目的に関する議論は続いているものの選手だけでなく、地域に住む人々にとってもスポーツの意義を考えるきっかけになると思われます。更に大会のために活動するボランティアの組織を、地域のスポーツ振興のために役立つものとして、大会終了後も活かしていく姿勢があれば、きわめて大きな財産になるのではないのでしょうか。

国体開催県一覧ホームページ

<http://www.pref.niigata.jp/soumu/kokutai/link/index.html#r-02>

ゆめ半島千葉国体ホームページ

<http://kokutai-2010chiba.jp/>



プロスポーツボランティア エコセミナー



プロスポーツのごみ分別の取り組み

～ エコシティ仙台プロデュースプロジェクト ～

恒例となりました「エコセミナー」が6月は「環境月間」という事もあり、6月22日(日)仙台中央市民センターを会場に開催されました。

主催 市民スポーツボランティアSV2004 (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)



講師は3つのプロスポーツのエコ活動に関わってきた村松淳司さん(MELON理事、エコシティ仙台プロデュースプロジェクトリーダー)と小林幸司さん(MELON事務局)が担当、内容は「ごみ分別のめざすもの」としてエコ活動の目的と効果を村松さん、「プロ球団でのごみの分別活動の実際」として現場の視点から小林さんが「エコシティ仙台」の経緯と内容を講演しました。

エコシティ仙台プロデュースプロジェクトとは2003～2004年度は「仙台スタジアムごみ減量大作戦」として、2005年度からは現在名で活動を進めているエコプロジェクトです。詳しくはSVニュース4月号の特集、ホームページ <http://www.melon.orjp/melon/contents/section/eco-city/frame.htm>

あらためて「地球温暖化」とは……

地球は太陽のエネルギーで温められており、その結果地面から出る熱の一部は宇宙に放出されますが、残りの熱は大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスにより再び地表にもどされます。こうして地球の気温が保たれるのですが、温室効果ガスが増加すると戻される熱量がふえて暑くなってしまいます。今暑くなることで「海面の上昇」「水不足」「さばく化」「熱帯の病気の流行」「旱魃などによる食料不足」など様々な変化がおきています。

私たちは生活するにあたってゴミを出します、それはスポーツ観戦時も例外ではありません、横浜国際競技場(日産スタジアム)では観客6万人のとき30.5トン(最高記録)のごみが排出されました、その量は一般家庭では40万世帯分に相当します。仙台も同様でありそうした現実を改善するためにエコシティ仙台プロデュースプロジェクトが活動しています。スタジアムのゴミの分別回収の成果としてKスタの例をあげると、紙コップ、きれいな紙、割りばし、レジ袋の撤廃(紙トレイ)、きれいなプラスチック、ジェット風船に分けた場合、リサイクルなどによって二酸化炭素を年間約60トン削減することに成功しているとのことでした。本来はリサイクルの前にタンブラー・マイカップなどのようにリユース(再使用)に力をいれることや、更にリデュース(ごみを減らすこと)を真剣に考えていく必要があります。そして、リフューズ(ごみになる物はもらわない)となるマイバック等にも広げていくことが大切です。プロスポーツではNPB(日本プロ野球機構)が全ての球団が参加し試合時間の短縮による、二酸化炭素削減に取り組んでいます。このように、チームをこえて種目をこえて一日も早いエコ活動の広がりを期待したいものです。

セミナーの最後に「みんなでディスカッション」と題して参加者との意見交換会が行われました。意識の高い参加者の意見・提案がたくさん飛び交う中で気になったのは、「ボランティアなどごみ分別をナビゲートする人がいない会場、ごみ箱が無い会場では、いとも簡単に分別やマナーが崩れ去ってしまう」という指摘でした。その意味では今回のセミナーでは、社会全体の環境意識の高まりとも連携しながら、スポーツの場をエコに関する啓蒙の場として活用していくことや、更に具体的な行動の出発点としていくことを確認することになりました。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)
準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円
お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)
または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)
申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004
レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)
メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469
申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

JFL・日本フットボールリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【ソニー仙台FC】 ボランティアは大学、専門学校だけに要請し、一般募集はしていません。

【SAGAWA SHIGA FC】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【カタレ富山】 ボランティアページ <http://www.kataller.co.jp/volunteer/index.html>

【HONDA FC】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【横浜武蔵野FC】 ボランティアページ <http://www.yokogawa-musashino.com/>

【栃木SC】 ボランティアページ http://www.tochigisc.com/info/entry/post_132.php

【ジェフリザーブズ】 ボランティアページ

http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=3448

【流通経済大学】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【佐川印刷SC】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【TDK SC】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【ガイナレ鳥取】 ボランティアクラブページ <http://www.ginare.net/site/page/gainare/volunteer/>

【三菱水島FC】 ボランティアページ <http://www.red-adamant.com/volunteer/index.htm>

【FC刈谷】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【FC琉球】 ボランティアページ http://www.fcryukyu.com/m/?page_id=101

【アルテ高崎】 ボランティアページ <http://artetakasaki.jp/>

【ファジアーノ岡山】 ボランティアページ <http://www.fagiano-okayama.com/fun/index03.html>

【ニューウェーブ北九州】 http://www.kitakyushu-fc.org/page_volunteer.php

【MIOびわこ草津】 ボランティアページ <http://fcmi-o.com/1141091142319/>

(注意) 内容は08年6月10日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

大沼 義彦 長津 詩織 渡辺 英樹 大泉 浩一

スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてSVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)

北京の夏

続々と代表が決定し北京オリンピックが近づいています。

「志願者」、実際には「願」の字はもっと複雑な文字を使用するのですが、中国語で「ボランティア」を意味しています。既に北京オリンピックを控えてこうしたボランティアの研修がはじまっており、ANAの機内情報誌「翼の王国」でその活動が紹介されています。

まず空港には「首都機場志願者」という学生を中心としたボランティアが活動しており、空港内部を中心に案内をしているほか、荷物の受け取りや誘導にも別のボランティアが活躍しています。その特徴は航空関係の学校の生徒が中心ということです。次に街中では「城市志願者」、つまりシティボランティアが約500ヶ所のサービスステーションで活動する予定ということで、締め切りの6月末までに40万人の募集枠を大幅に越える応募が見込まれているそうです。

編集後記

自然界は時として思いがけない災害をもたらします。6月14日朝の「岩手・宮城内陸地震」は山の姿を大きく変え、人々の命を奪っていきました。それは本当に突然のことで時間の経過とともにテレビを通じてもたらされる映像の前で、私たちは呆然とするばかりでした。災害を予測することはまだまだ困難です。せめて出来ることはこうした記憶を風化させず、常に可能な限りの備えをすることでしょう。そして改めて「健康」で「安全」で「平和」な中でスポーツを楽しめる環境作りをめざしたいものです。最期に、全国各地の多くの皆様より激励の言葉をいただきましたことに対し心より御礼申し上げます。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp